

子どもたちに寄り添う教育を問い直すアピール

学校で子どもたちに最も身近な存在は私たちです。

私たちは、子どもたちの話をしっかり聴けているでしょうか。

私たちは、子どもたちのシグナルを見逃してはいないでしょうか。

私たちは、学校全体で子どもたちに寄り添う体制がとれているでしょうか。

子どもが自らのいのちを絶つ事件が後を絶ちません。何事もないように見える子どもも、心の中には不安や悩み、ストレスをかかえています。いじめ・暴力等で追い詰められている子どもたちの叫びを、私たちはしっかり受け止めなければなりません。

私たちは、憲法・子どもの権利条約の具現化をめざし、いのちや子どもの権利、子どもとの関わりを大切にした教育をすすめてきました。しかし残念ながら、「先生に相談できない」「相談しても何もならない」という子どもの声があります。本来、学校は子どもが安心できる居場所となっていなければなりません。子どもたちに関わることを最優先し、子どもたちに寄り添いながら、子どもたちが互いに支えあう教育をめざします。

子どもたちの助けてほしいという心のメッセージを受け止められているか、今一度問い直し、教職員の協力・協働体制のもと、お互いに支えあう学校づくりをすすめていきましょう。また、学校・保護者・地域の人々との連携をはかり、おとなが人権意識を高め、子どもたちのいのち・人権を守る社会を築いていきましょう。

2012年7月26日

日本教職員組合第156回中央委員会